

2017年度 兵庫県トライアスロン協会 第3回理事会議事録

1. 開催日：2018年4月1日（日） 9:00～10:35

2. 開催場所：神戸市立兵庫勤労市民センター 第2会議室

3. 理事会定足数

理事総数会長以下：総数 37人（過半数 19名）：出席数：30名（委任状出席を含む）

出席 14名、欠席（委任状あり）：16名、欠席（委任状なし）：1名

定足数を満たし、本会議は成立する。

4. 出席者

出席：14名（水野副会長、渡邊理事長、仲宗根技術委員長、酒井副理事長、伊藤常任理事、増本常任理事、藤浦理事、宮本理事、岡本理事、竹中理事、川崎理事、篠原理事、武田理事、山本事務局長）

欠席（委任状有）：16名（関副会長、榎本副会長、八尾常任理事、尾崎常任理事、河合常任理事、浅田常任理事、須崎常任理事、辻理事、松尾理事、石飛理事、田中理事、

本多理事、高谷理事、長谷川理事、脇本理事、谷井メディカル委員長、）

欠席（委任状なし）：1名（木倉常任理事）

オブザーバー：4名（的場諄一顧問、荒川学氏、市木雅広氏、大西健久氏）

議事録作成：山本事務局長

5. 議事内容

(1) 開会宣言：渡邊理事長

(2) 定足数の報告：山本事務局長

・理事総数会長以下：37名

・出席者 14名

欠席 17名（内 委任状 16名）

・合計 30名（委任状を含む）。定足数を満たし、理事会の成立を確認した。

(3) 会長挨拶：水野副会長

・関副会長からの祝辞兼挨拶文を水野副会長代読

・2018年度の会員登録は、3月24日現在 681名と多くの会員を抱える組織となった。また、2月25日には、30周年の節目を迎えるパーティを開催した。

・2018年度に向けて、しっかり計画を立てて臨みたい。

(4) 議長選出：規約に則り、会長代理として、渡邊理事長が議長に選出された。

(5) 審議事項

● 第1号議案 2017年度事業活動報告：伊藤常任理事

・資料に従い、概況を報告。

・2017年度は、兵庫県トライアスロン協会（HTA）主管・共催大会として、4大会を

開催し、ラブトライアスロンに審判協力した。

- ・残念ながら、潮芦屋 AQ 大会で死亡事故が発生した。救護体制、事故発生時の対応など、警察の見解は、事件性なしとの判断で瑕疵はなかった。保険も 1.5 ヶ月後に下りた。

しかしながら、亡くなった方が、前年度もリタイアされているという情報を把握できていなかったことの反省や関連性は不明とは言え、持病を抱える選手の大会参加へのリスク、選手自身の自覚を促す対策など、今回、事故防止委員会では多くの課題が指摘された。これらの対策として、誓約書について、見直し（案）を作成した。内容は、JTU HP に掲載されている【ITU Athletes Agreement 2018】などを反映して、メディカル委員会の了承を得て、作成したもの。併せて、【トライアスロン大会への参加申込にあたって】も紹介した。

- 【質疑】

- ・誓約内容の 3 項は、保険金以外は関与しないという印象を与えるのではないか？
- ・誓約内容の 8 項は、個人情報の確保の視点から十分な内容なのか？
- ・誓約内容の 9 項は、具体的な線引きはどうするのか？
- ・線引きの方法、実際の運用をどうするのか？
- ・保険金に関する情報を明示して、事前に選手に知らせておくべきではないか？

→内容は、主として、すでに、JTU の HP に掲載されている文面を引用しているので、問題はないと考えている。誓約を強めると、選手が大会参加を敬遠するのではないかという大会実行委員会側の危惧もあるかと思われる。自己責任についての理解を広める。運用面は、各実行委員会と個別に検討していきたい。（伊藤常任理事）

- ・渡邊理事長より、補足。
- ・4 月～10 月は、過去の理事会で報告終えているが、その後の動きを報告。安全対策の再構築を進める。県下は、各大会の規模は、300～400 名程度だが、定員枠を超える応募がある状況。キャパを上げることなく、安全・安心な大会運営に努めていく。

- 【結論】 第 1 号議案は、提案通り承認された。

但し、誓約書の内容等は、個々の大会の実行委員会と詰める。

- 第 2 号議案 2017 年度収支決算報告：山本事務局長

- ・資料に従い、説明。
- ・2017 年度も、登録会員数は増加し、予算設定の 800 人を上回った。
収入は、会費収入と助成金、事業収入。
- ・支出の大きな項目としては、事業費と競技関係費。
- ・2017 年度は、国体がなかったが、30 周年記念事業で、大きな支出があった。会費

収入が 490,000 円に対し、経費が、853,494 円となり、約 300,000 円の支出超過となった。

- ・2017 年度は、10 年に 1 度の【ひょうとら君 3 体の商標登録料 87,400 円】が、発生した。予算未計上分の支出となった。
- ・体育協会の補助金は現在、最終の査定中。2017 年度より県体育協会の補助金使用状況の明細を報告。

● 【質疑】

- ・お盆の国体・日本選手権強化合宿には、HTA では補助を出しているのか？（岡本理事）

→兵庫は、過去から強化選手に対して、合宿費の補助を行っている。体協の強化事業の予算申請においても、協会負担金として、計上している。（山本事務局長）

- ・20～30 万円の赤字であれば、大会参加費を少し、値上げすれば解消できる範囲ではなか。検討してみてはどうか。（岡本理事）

→提案ありがとうございます。2018 年度は、すでに、大会要項が作成され、選手募集をしている段階なのでまにあわないが、2019 年度には、検討したい。（山本事務局長）

- ・岡本理事（県体育協会職員）より、県体育協会 SA（スーパーアスリート）補助金について補足。

SA の補助金については、結果が判断基準。前田隼矢選手は 2 年間、支援したが、残念ながら、結果に結びつかず、2017 年度で終了。内田真樹選手は、水泳で国体において、入賞するなど、活躍中、今は、水連に任せ、将来、トライアスロンで活躍の場をと考えている。

2018 年度は、HTA から推薦のあった本多晴飛選手が最終の審議に進んでいる。非常に身体能力が高い選手で、海外留学等で、力を付けてほしい。母である本多国体女子監督にも同行して、コーチングを学んできて欲しい。次は、指導者海外派遣制度を利用して、報告する立場に立つ意気込みで、頑張ってもらいたいと考えている。HTA からの支援もよろしく願いたい。

- ・【結論】第 2 号議案は、提案通り承認された。

● 第 3 号議案 2018 年度事業計画案：渡邊理事長

- ・資料に従い、説明。
- ・2017 年度は、年間 4 大会（丹波、明石、潮芦屋、加西）を主催・共催・主管した。
- ・2 月 25 日に設立 30 周年の記念の集いを開催し、全国から、JTU を始め、県体育協会、行政機関などから、約 65 名の参加を頂き、成功裡に終わることができました。新たな発展に向かい、一步一步、進んでいく。

- ・兵庫県体育協会の協力の下、2020年の東京オリンピックに向けた【ジュニア育成強化・拠点事業】が4年目に入る。進学先の環境の変化等で、高校での成果は顕著でなかったが、今年度も、引き続き、向上を目指す。2018年度は、本多晴飛選手を推薦している。非常に身体能力の高い選手で、これからの成長が期待される。
 - ・TOKYO 2020まで、2年。全体としては、真にアスリートのための大会となっているのかという思いはあるが、地方は、冷静に将来を見据えて、活動を続けていく。
 - ・HTAの登録会員数は、900名にあとわずかの段階に達し、昨年を上回るようだが、やはり、課題のジュニア（中・高校生）の会員登録が苦戦中。県下には、高校、更には、私学の雄と言われる大学をはじめ、国公立を含め、トライアスロン部がないという現状がある。
 - ・パラトライアスロンも大西パラトラ担当理事の積極的な普及活動もあり、認知度が進んできた。今年度、始めて、認定記録会にパラ部門を併設して、開催した。選手の競技力向上とともに、支援者の拡大が急務になってきた。
 - ・30周年記念事業の集いで、【兵庫県トライアスロン協会の理念】を【We have 7stars】として発表した。これからもアイデアを出し合い、強い使命感をもって、協会の運営を行う。
 - ・2018年度第20回を迎える丹波大会は、残念ながら、最終開催となる。ジュニアの発掘、年度初めのスプリント、環境にも恵まれており、失くすには惜しい大会。なんとか継続できないか、受け皿を探している。しかし、地元核となる人物が必要となり、難しい。
 - ・4年に1度開催される【World Masters Games 2021 Kansai】は、正式競技として、トライアスロンは徳島・美波町の日和佐、デュアスロンは京都の南丹市で開催される。協力をお願いしたい。
 - ・LOVE TRIATHLON in あわじは、2018年度から、JTUの後援、HTAが競技主管として開催するよう西内レースディレクターと調整中。ハードルの低い大会ではあるが、800名規模、安全な運営と参加するアスリートの意識レベルの向上が必要。積極的に絡んでいく。
 - ・認定記録会兵庫会場は、プール（神戸常盤アリーナ）、陸上競技場（アサダスタジアム）ともに、新しい会場を使用した。選手にとって、尼崎と神戸・明石、どちらの会場が良いか、検討を進める。色々な意見をいただききたい。
 - ・加西大会は、アクアスロン部門を新設するとともに、パラトライアスロンのデモ競技を予定している。普及に関しては、昨年開催した加西トライアスロン教室を数回開催予定。
- 初回は、5月20日。指導者養成委員の河合常任理事を中心に実施する。
- ・【結論】第3号議案は、提案通り承認された。

- 第4号議案 2018年度予算案：山本事務局長
 - ・資料に従い、説明。
 - ・2018年度は、現登録状況を鑑み、会員登録数850人で予算を設定した。
 - ・2018年度の県体育協会助成金は、2017年度と同額。
選手強化：423,000円 選手育成：226,000円（暫定）の内示があった。
 - ・2018年度は、国体が開催されるので、国体経費として、450,000円を計上。
 - ・県体育協会岡本理事より、補足。
県体育協会の国体補助金の考え方を説明。交通費は、JR使用で、実費の80%、宿舎は、割当制となる。全額補助ではないので、各加盟団体での予算計上が必要、
 - ・渡辺理事長より、補足。
兵庫県は、国体での8位以内入賞が目標。トライアスロンは、直近の岩手国体では、澤瀉大樹選手が9位と健闘、上位には位置しているが、正式競技である以上、当然、8位以内に入賞し、得点を取ることで、天皇杯、皇后杯の成績に貢献しなければならない。今年も八尾国体監督を中心に強化事業に取り組んでいく。

- 【質疑】

特になし。

- ・【結論】第4号議案は、提案通り承認された。

- 第5号議案 2018年度 役員改正案：渡邊理事長

- ・理事に関しては、従来は、会報等で公募し、基本、自薦、他薦で手を挙げていただいた方は受け入れてきた。然しながら、自薦で受け入れた理事で何も活動をしていない方が出てきており、見直しをする時期に来たという考えで、2016年度の総会にて、規約を改定し、役員選任の基準を明確にした。新規約の考え方に実績等を照らして、検討した結果として、2018年度の新体制を提案する。

尚、すでに、報告済の通り、新規約に基づく、新規の立候補者はなし。

- ・役員改正案

2018年度は、会長・副会長を含め、34名の体制を提案する。(理事定員 40名)。各理事には、担当を振り当てたが、希望等意見があれば、提案いただきたい。

- ①長谷川順一理事→退任（家庭の事情により、本人からの申告）
- ②車ひろし理事→退任（仕事の関係で多忙。近年の活動状況から八尾常任理事判断）
- ③岡本治樹理事→退任（近年の活動状況から渡邊理事長判断）

④鎌田哲夫顧問（弁護士）→退任（高齢のため辞任）

⑤浅田修宏顧問（弁護士）→新任

・渡邊理事長より、補足。

今回の退任で、但馬地区と人口約 14 万人の淡路島に役員がいなくなった。どちらの地区も会員数は 1 ケタ程度だが、個別にコンタクトを取り、できれば直接お会いして、活動に協力していただいけそうな方を探すよう試みる。

● 【質疑】

・技術委員と、審判委員の違いはなにか？（宮本理事）

→兵庫は、審判委員会と技術委員会を分けている。審判委員会は、ITU の Lever2 資格をもつ尾崎常任理事に委員長として、審判講習会などで指導いただいている。

技術委員会は、審判技術だけでなく、TD（テクニカル・デレゲート）として、大会を組み立てるための知識やノウハウを積むこと目的とする委員会。宮本理事には、両方を目指していただきたい。中点が抜けているが、技術・審判という認識。ご協力をお願いしたい。（仲宗根技術委員長、渡邊理事長）

・【結論】第 5 号議案は、提案通り承認された。

(6) 報告 各専門委員会、事務局

● 2018 年度の HTA 会員数の報告（山本事務局長）

・詳細は総会にて行うので概要のみ報告

2017 年度 10 月末 885 名（新規 239 名、継続 646 名）

2018 年度 3 月 30 日現在 701 名（新規 138 名、継続 563 名、男性 609 名、女性 92 名、ジュニア 17 名）

● パラトライアスロン委員会からの報告

・資料に基づき、2017 年度の活動内容と 2017 年度の活動計画が報告された。

・【パラスポーツアイランド徳之島】の報告がされた。

徳之島での視察結果の報告。島内三町の行政の協力がいただけること、資金面の援助がみえてきており、引き続き、システム構築を進めたい。これもパラトライアスロンの普及の一つという考えで、活動を進めることを承認いただきたい。

・【結論】パラトライアスロン委員会からの承認依頼事項は、提案通り承認された。

6. 閉会宣言：酒井副理事長

以上